

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年10月分）

【製造業】

○製造業は、8月の鉱工業生産指数は前月比4.3%上昇となった。ヒアリングでは、今年度決算において、売上高は目標を達成したものの、原材料高騰により、利益は減少しているとの声や、モーター等の部品の納期が遅延しており、受注はあっても製造が進まず、対応に苦慮しているとの声、自動車関連の受注が減少しているため、他業種からの受注を積極的に受け入れているとの声が聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、8月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、パルプ・紙、窯業・土石、家具、繊維工業で上昇した。ヒアリングでは、原材料価格の高騰に伴い価格転嫁を行ったものの、売れ行きが悪いため、従来の価格に下げ販売を行っているとの声や、受注が好調なため売上は増加したものの、原材料高騰により、売上の増加以上に製造原価が増加しており、赤字が継続しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、9月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比4.3%増加した。ヒアリングでは、増産に対応するため、新規設備を導入したとの声や、IT導入補助金を活用し、BtoCのECサイトを構築中との声、更には、事業の方向転換の必要性を感じ、事業再構築補助金を活用した設備投資を行っているとの声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、9月の販売額は、ホームセンター、百貨店・スーパーで減少し、全体で前年同月比▲0.2%となった。ヒアリングでは、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れたことや、連休中の集客が奏功し、売上は回復傾向となっているとの声や、値上げ前の駆け込み需要により増収となっているとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、9月の観光客数、宿泊者数は令和元年同月比▲25.0、▲26.2%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、外国人観光客の問い合わせが増えてきているとの声が聞かれた一方で、客数はコロナ前には遠く及ばないとの声や、人員不足が深刻化しているとの声も聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、9月の制度融資実績は、件数、金額とも17ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、運転資金需要の高まりや、融資枠を増枠する動きがみられるとの声や、輸出企業は円安の恩恵よりも、仕入れコスト上昇による収益圧迫の影響が大きいとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、9月の有効求人倍率は1.69倍と13ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、原油・原材料高騰や円安など不安定な状況で、新規で採用する判断が難しいとの声や、受注が増加しているものの人手不足となっており、納期を遅らせてもらうなどの対応を行っているとの声、若い人材に入社してもらえよう、賃金アップなど雇用環境の改善を図っているとの声が聞かれた。

【景気動向】

8月の景気動向指数（一致指数）は前月比1.2ポイント上昇、9月の中小企業の景況感はおおむね同±0ポイントとなった。